

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 3

昨年の災害を振り返って

愛媛県 新居浜市長

さ さ き りゅう
佐々木 龍



新居浜市は、昨年8月以降、相次ぐ台風の襲来により、かつて経験したことのない大きな被害を受け、連日のようにテレビ、新聞等で報道されたことはいまだ記憶に新しいところです。平成16年は、いわゆる「災」という言葉で一年が総称される年でしたが、私は、「災」とともに「命」という言葉も重く感じました。

新居浜市においては、土砂災害等により9名の尊い命が失われ、多くの世帯において床上、床下浸水という被害を受け、今なお、仮設住宅や仮住宅において困難な生活を余儀なくされている方々がおられます。

私は、これらの自然の脅威に直面する中で、これまでの常識や「新居浜市は天災の少ない恵まれた自然条件のまち」という先入観を捨てて取り組まなければならないと改めて考えさせられました。

幾度かの台風被害の後、災害に対してより迅速かつ適切に対応するため、台風の接近等で災害が発生する恐れがあると判断される場合に、市内各地域へ職員を配置し、自治会長と協力して地域への広報活動や被害状況の収集等を行うようにし、地域と市（水防本部）との密接な連携体制の強化を図りました。

私は、昨年の災害を通じて、常に市内の実情や市民生活の現状を知り、現場の中こそ真実があるという現場主義の大切さを改めて実感しました。また、この間、自治会を中心とした地域の助け合い、中学生から高校生を初め多くの市民や市外、県外からのボランティアの御協力、国、県の支援、多くの方々からの義援金をいただき、この場をお借りして感謝を申し上げます。



大生院地区の土砂災害



滝の宮歩道橋の崩壊



道路、敷地の冠水